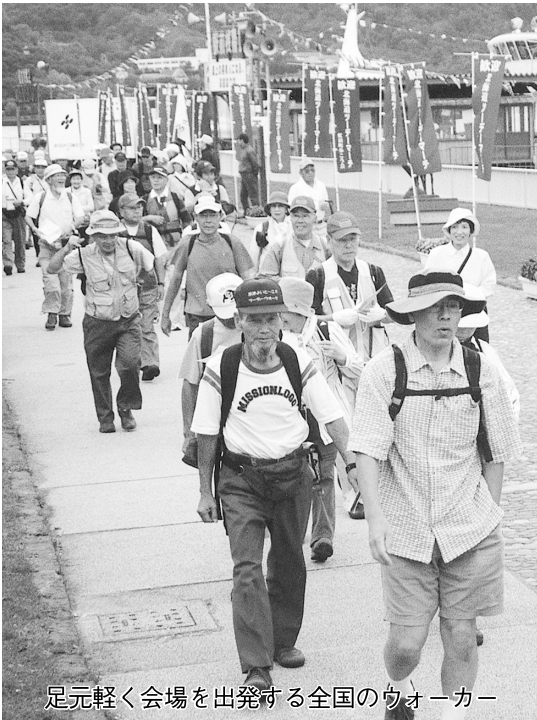


2,041人のウォーカー 秋の洞爺湖周辺を軽快に歩く



足元軽く会場を出発する全国のウォーカー

9月17日、18日の2日間の日程で、第18回北海道ツアー・デーマーチ(同実行委員会主催)が、洞爺湖畔を主会場に開催されました。

今年は、遠く鹿児島をはじめ1都1道2府35県から2日間で2,041人の健脚自慢が集いました。

雨が降ったり止んだりのあいにくの天気になった初日ですが、全国から参加したウォーカー542人がメインの湖畔1周コース(36km)を午前7時に出発。続いて洞爺湖・豊浦パノラマコース(20km)、洞爺グルメコース(13km)、火山科学館・金毘羅コース(5km)の参加者が、自分のペースでゴールを目指して出発しました。

各コースの休憩・ゴール地点には、豚汁や三平汁などが振舞われ、参加者の疲れを癒しました。

2日目は、早朝から雨が降る最悪のコンディション。しかし、全国から集まった参加者は、雨にもたじろぐこともなく、有珠ぐるっと1周コース(30km)をはじめ4コースにそれぞれ完歩をめざして出発。

洞爺湖中島コースでは、出発時に雨もおさまり、参加者は、森林の中を心地よい空気を吸いながら、倒れた巨木アカエゾマツを巡るコースに挑みました。

北海道巨樹・巨木サミット アカエゾマツのクローン苗木植樹

「次世代に引き継ぐ巨樹・巨木を目指して」をテーマに第5回北海道巨樹・巨木サミット(巨木「洞爺湖・中島アカエゾマツ」保全協議会、北海道森林管理局主催)が、9月17日、18日洞爺湖温泉で開催され、この中で昨年9月の台風で倒れた同アカエゾマツのクローン苗木の植樹が行われました。

同サミットは、平成12年林野庁が「森の巨人たち100選」を選定し、その後選定された関係市町村で毎年開催されてきました。今年は、この巨木の保存と合わせて、噴火復興5年の記念として、当町で開催されました。

17日は、洞爺湖万世閣で巨樹、巨木の所存する自治体関係者約30人が参加し、シンポジウムが行われました。長崎町長が「関係機関のご協力で、アカエゾマツが保存されることになり感謝いたします。これからも大切にしていきたい」と

挨拶。その後基調報告などを行いサミット宣言を全体で確認閉会しました。

18日は、北海道ツアーデーマーチ中島コース参加者151人と一緒に、倒れたアカエゾマツのある場所まで歩き、そこで案内版の除幕式と倒れたアカエゾマツの根元にクローンの苗木3本の植樹を行いました。

これは、樹木の遺伝子を残す事業を行っている独立行政法人林木育種センター北海道育種場が提供してくれたもので、参加者は「アカエゾマツのようにたくましく育って」の願いこめて植樹していました。



アカエゾマツのクローン苗木の植樹